

令和 8 (2026) 年度 予算編成指針 (案)

令和 8 (2026) 年度東京学芸大学附属国際中等教育学校「教育活動助成金 (委任経理金)」 「教育文化基金」 (以下「両予算」) 編成に当たり、下記の通り編成の方針を決定し、本指針に基づき、令和 8 (2026) 年度両予算を編成する。両予算は、令和 8 (2026) 年度の PTA 総会で提案・承認されるものであり、本編成指針は、本校に立案を委任されている両予算原案の根幹を成すものである。

記

1. 基本的編成方針

事業全般について、その必要性、効率性、成果を十分に検討し、事業の実効的な推進のため、執行体制について責任と権限を明確にし、意思決定を行い、恣意的な予算執行を防止するため、起案決裁を徹底する。現状並びに今後の課題の解決を図るため、各予算の意義を十分に踏まえて、各経費項目間の優先順位を決定する。令和 6 年度に完成した教育文化基金の歳入強化策において定められた年間約 2,100 万円の増額分の使途は、施設およびシステムの整備に限定する。

予算の決定については、①予算編成指針 ②予算請求 ③ヒアリング ④予算案決定を一連の流れとし、予算執行にあたっては保護者・生計維持者に説明責任の尽くせる歳出を行う。予算編成では、厳しい選択を図り、将来的な成長を見込んだ支出を心掛け、限りある財源を効果的に配分した予算を編成する。このことにより「学校経営計画」に基づく本校の教育活動を予算面で支えることとする。

2. 令和 8 (2026) 年度の編成方針

本校は、全国初の国公立校における国際バカロレア (IB) ワールドスクールとして、中等教育プログラム (MYP) およびディプロマ プログラム (DP) を実施している。本校における IB 教育の充実に加えて、我が国における IB 教育のショーケース的役割を果たす学校として、文部科学省や同 IB 教育コンソーシアムと協力して、IB 教育を全国に広め着実な取組みへと根付かせていくこと、また東京学芸大学教職大学院と協力して、IB 教員養成の場を提供していくことが、本校の使命である。

大きな技術革新である生成 AI や働き方改革に大きなソリューションとなりうる校務支援システムは、本校の使命を考えた時、積極的にその対応を検討していかなくてはならないテーマである。

また、スーパーサイエンスハイスクール (SSH) III 期目にあたり、今年度の中間評価を受ける年度にあたる。SSH 予算で賄えない支出が生じた時は本予算で柔軟に対応する。

これらの特色ある教育を実施するため、前例踏襲主義や形式平等主義を排し、学校の根幹である

授業支援を中心に据え、加えて以下の各点を編成の基本方針に定め、必要諸経費のバランスを考慮しながら予算編成を行う。

(1) 本校の課題解決を図る予算編成を実現する。

- ① 歳出項目の内容を精査し、各項目と支出内容が一致するよう予算建ての正常化を果たす。
- ② 経年劣化の見られる校内設備、管理用什器類を調査し、更新計画を管理部門、担当部署を中心に策定し、施設改良を含めた予算を確保し、計画執行する。
- ③ 生成 AI の教育へ活用については、積極的に先行投資をおこなう、
- ④ IB の MYP/DP を実施する上で改善の必要な事項および探究型の授業展開を支える教材教具・環境整備に優先的に措置する。
- ⑤ ターフグラウンドを含む構内美化の予算を確保する。
- ⑥ 生徒の安全確保と能率的な教育活動の実施のため、健康的な環境維持が必要とされる箇所の点検を進め、必要な予算を措置する。特に冷暖房設備維持のために配慮する。
- ⑦ 生徒の健康安全に直結するものについては優先的に措置する。災害・侵入者・不審者から生徒・教職員・施設を守るための機器予算を措置する。
- ⑧ GIGA スクール構想に基づいた前期課程生徒の完全一人一台環境の整備を行うとともに、後期課程生徒の一人一台環境の整備のための予算を措置する。
- ⑨ オンライン等機器を活用した授業や国内外学校との交流を実施するための予算を措置する。図書館の DX 化については特に配慮する。
- ⑩ 進路指導力の向上に関する研修会実施の予算を措置する。
- ⑪ 先進的な教育および研究の推進を図るための予算を措置する。
- ⑫ 1, 3, 5 年次のワークキャンプおよび 4 年次シーズンスポーツを安全に実施するための予算を措置する。また、生徒を海外に派遣する事業予算について措置する。
- ⑬ 学問的誠実性に係る取組みのための予算を措置する。
- ⑭ 入学選抜業務に万全を尽くすための予算について措置する。
- ⑮ 創立 20 周年記念事業のための予算を措置する。

(2) 市民感覚やコスト意識に裏付けられた適正な予算編成に努める。合わせて、計画的・日常的に事業執行に係る検証を行う。

3. 中・長期的編成指針

以下の各点を中・長期的編成の基本方針として定め、必要諸経費のバランスを考慮しながら継続性を重視した計画的予算編成を行い、事業の円滑な推進に資する。

(1) 廃プールの撤去・W棟へのエレベーターの設置など施設の大規模改修計画を策定する。

(2) PYP 認定校である附属大泉小学校とともに、この地区の統一的な整備について、引き続き関係者と協議する。